古代ギリシア文化研究所 2022 年度秋季研究集会
報告要旨

1．ヘレニズム期ロドスにおける居住外国人

讃岐　綾奈（名古屋大学大学院　博士前期課程 2 年）

ヘレニズム期ロドスは、外交面ではヘレニズム諸王国同士の権力均衡を巧みに生き、海上交易による経済的繁栄を、内政面では海軍を権力基盤とした上層市民による活発な公共奉仕により、社会的安定を築いた。社会生活においては、市民の組合活動が活発で、旧 3 都市を超えた人的ネットワークを構築した事例が見受けられる。さらに市民だけでなく外国人もまた、経済活動による富を手にし、市民と同様に公共奉仕に注力し、組合を創設し、活発に活動した。さらに永住権 *epidamia* や土地保有権 *enktēsis* を獲得し、数世代に亘ってロドスに居住した外国人一族もいた。

本報告では、前 2 世紀から 1 世紀にかけてロドスに居住した外国人 3 名（キュジコスのニカシオン、イリオンのフィロクラテス、アレクサンドリアのディオニュソドロス）を取り上げ、彼らに関する碑文から、外国人の家族関係、社会生活、市民権、組合活動に焦点を当て、外国人を取り巻く社会制度について考察を行う。

2．前 4 世紀以降のアテナイにおける通婚の実態―墓碑が示す可能性―

篠原　道法（大阪公立大学研究員）

古典期アテナイの社会について、伝統的理解は、ペリクレスの市民権法（前 451/0 年成立）を象徴として、市民団の閉鎖性を強調する。そして、前 4 世紀の中頃までに成立したとされる通婚禁止令は、同世紀にはその閉鎖性が一層厳格さを増していた証拠と、しばしばみなされてきた。

それでは、通婚禁止令は人々の実際の行動をどれほど規定していたのか。この法により、市民と外国人の間の結婚は大幅に抑制されたのだろうか。かかる問題に取り組むための資料として、墓碑が注目に値する。というのも、特に銘文の形で夫婦関係を明示する多数の墓碑の事例が確認されるからである。本報告では、こうした墓碑の興味深い事例をいくつか取り上げて、前 4 世紀以降のアテナイにおける通婚の実態について、一つの可能性を示したい。

3．アカルナイのデーモス決議とディオンの奉納碑―*SEG* 21.519 と RO 88―

師尾　晶子（千葉商科大学）

周藤芳幸編『古代地中海世界と文化的記憶』（山川出版社、2022 年）所収の論文「記憶の継承の場としてのエフェベイア」において取り上げたアカルナイ出土の 2 枚の石碑（*SEG* 21.519《デーモス決議》および RO 88《ディオンの奉納碑》）は、現在在アテネフランス研究所長の建物の入り口の壁に展示されている。2022 年 9 月、現地にて写真を入手し、不十分ながらあらためて検討する機会を得た。

前稿では、エフェベイアに焦点を当てつつ両碑文、とくに RO 88 について考察したが、本報告では *SEG* 21.519 に焦点を当て、2 枚の碑文の関係と建立の背景について、前稿での議論に若干の修正と補遺を試みる。とくにアレスおよびアテナ・アレイアの神域整備の時期と背景について、またアカルナイとアレス祭祀との関係、決議に見られるアカルナイとポリスとの関係について考察したい。